

F P まつもと通信

ちょっと得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

熱中症が気になる季節になりました。毎年数万人の人が熱中症で救急搬送されています。

暑さが気になり始めるこの時期、「暑熱順化」を意識してはいかがでしょうか？

「暑熱順化」とは徐々に体を暑さに慣れさせ、暑さに強くなることです。ジョギングやウォーキングはもちろん、入浴でも効果があるようです。

(熱中症ゼロへ 日本気象協会)

<https://www.netsuzero.jp/learning/le15>

梅雨の晴れ間や梅雨明け直後は暑熱順化ができていません。今のうちから意識しておくの良いかもしれませんね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

厚生労働省は「公的年金シミュレーター」の試験運用を始めました。ねんきん定期便の2次元コードを読み込むだけで簡単に将来の目安がわかります。

子どもの数 41年連続減少

先月総務省はこどもの日にちなんで、2022年4月1日現在の子供の数を発表しました。

それによると、2022年4月1日現在の子供の数は1465万人と前年の1491万人から25万人減少、総人口に占める子どもの割合も11.7%とこちらは48年連続の減少となりました。

子どもの数（左軸）・割合（右軸）の推移



総務省統計局 <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/pdf/topics131.pdf>

総数がピークだったのは1954年の2989万人、人口の1/3以上が子どもだったのですね。

国民皆保険・皆年金制度が施行されたのが1961年ということを見ると、社会保障の受給や負担の在り方などの議論があるのは当然と言えます。

さらにこのころには全く想定されていなかった介護などの問題も出てきています。

自分でできる準備はしっかりとしておきたいですね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

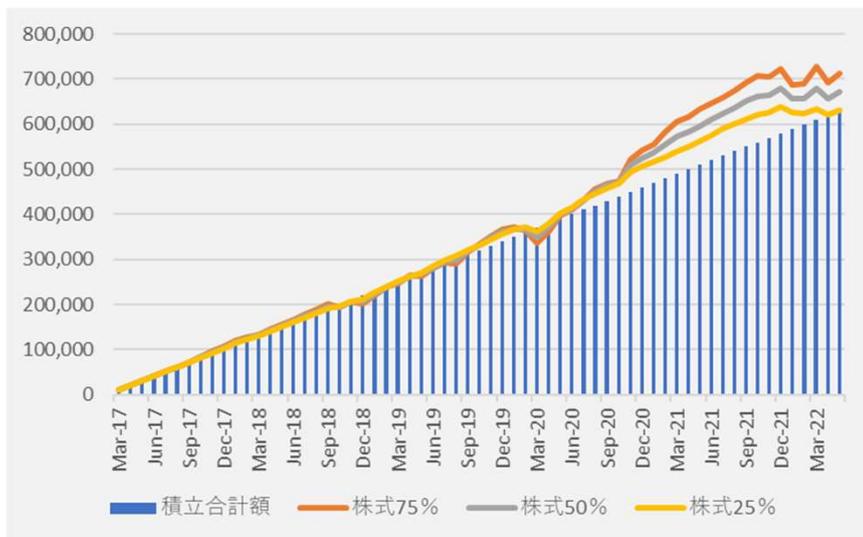
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勤める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2022年3月末	610,000	727,588	679,334	633,352
2022年4月末	620,000	692,801	657,004	621,229
2022年5月末	630,000	712,471	672,546	631,586

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。但し、「取り崩し運用」の場合、債券は不要。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均		NYダウ		ドル円
3月末	27,821.43	4.88%	34,678.35	2.32%	121.73
4月末	26,847.90	-3.50%	32,977.21	-4.91%	129.75
5月末	27,279.80	1.61%	32,990.12	0.04%	128.73

株式市場は横ばい

5月の株式市場は4月の大幅下落の流れを引き継いで31253ドル（5月19日）まで下落しました。翌20日金曜日は下げ止まったものの、週末の終値が前の週の終値を下回るのが8週連続と、1930年代の世界大恐慌以来、と話題になりました。

しかしながら月末にかけてインフレ加速への警戒感がやや和らいだことなどから上昇に転じ、NYダウは前月比横ばいで終わりました。

6月に入ると上海のロックダウンは解除になるなどや不透明感は払しょくされた感があります。

一方インフレについては、OECD加盟国の4月の消費者物価指数の上昇率が前年同月比9.2%と1988年9月以来33年7カ月ぶりの高水準であること、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格や小麦価格への影響なども気になるところです。

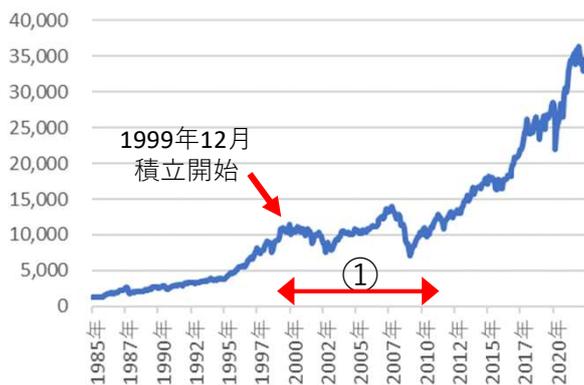
コスト増による企業利益の減少、生活防衛のための消費縮小、によるインフレ下の景気悪化が懸念されています。

当面は良いニュースよりも悪いニュースに反応しやすいマーケット展開が予想されますが、短期の値動き、それを解説するニュースに惑わされずに積立を継続することが大切です。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

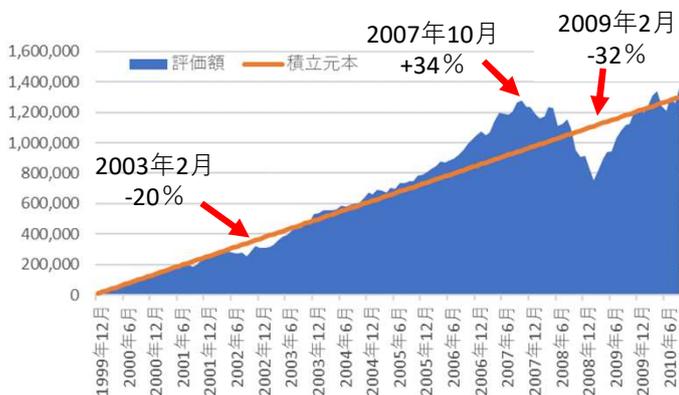
「3月半ばから5月半ばまで週間株価で90年ぶりの8週連続値下がり」、などというニュースを見ると心配になる人もいるかもしれません。今月は過去の長期低迷時にどうだったのかを確認してみましょう。

下図は1985年1月から2022年5月までのNYダウ平均株価の推移です。



2000年に入るとITバブルが崩壊、さらに2001年9月には911同時多発テロ、2003年3月にイラク戦争開戦、と3年以上に渡り下落相場が続きました。その後株価は13,930ドル（2007年10月）まで回復しますが2008年9月のリーマンショックで7,062ドル（2009年2月）まで下落しました。リーマンショック後に1999年末の11,497ドルを上回るのは2010年12月、リーマンショック前の高値を上回るのは2013年2月でした。

下図は1999年12月から2010年9月まで毎月1万円の積立をした場合の積立元本と評価額の推移を表しています（上図①期間）。



積立を開始直後にITバブルが崩壊、イラク戦争直前には積立元本39万円に対して20%のマイナスの約31万円になりました。その後2003年2月安値の8か月後の2003年10月に積立元本を回復。2007年10月のリーマンショック前の高値では積立元本95万円を34%上回る約127万円になりました。

ところがその後のリーマンショックで再び元本を32%下回る75万円（積立元本110万円）に。元本を回復したのは2009年2月の安値から1年8か月後の2010年9月、積立開始から10年10か月後でした。

下図はその後2019年11月まで合計20年間積立を継続していた場合の推移を表しています。2019年11月の評価額は約536万円（積立元本240万円）と積立元本の2.2倍になっています。



このケースでは、当初3年間は期間を通じて元本を下回っていました。その後回復したかに見えましたが再び暴落で大きく元本割れ。再度元本を回復するまでに10年かかりました。

しかしながら次の10年で株価は大幅に上昇し、20年で積立元本の2倍以上になりました。

マーケットに逆風の時期が続く、なかなか増えない時期が長く続く時もありますが、企業は、株価に関わらず利益追求活動をしているはずで

低迷時、不安に感じることもあるかもしれませんが積立を継続することが大切です。

ちょっと気になるお金のコラム

2022年度の年金支給額 0.4%減

今年度の公的年金の支給額は前年比0.4%の減額になりました。

ガソリンを始め物価が上がる中、年金の受給者の生活には影響が出るかもしれませんが、公的年金は現役世代の負担を増やさないようにしながら年金制度を維持するため支給額を調整する仕組みになっています。

年金については、この他に4月から長寿化・高齢化に対応する改正が2点ありました。

1. 繰下げ受給が75歳までに延長

原則65歳支給開始ですが、支給開始時期を早めたり遅くしたるすることができます。繰上げた場合は1カ月当たり0.4%減額に、繰下げた場合は0.7%/月の増額になります。

2. 在職老齢年金の支給停止基準の変更

60歳～64歳の人働きながら年金受給をした場合、給与と合わせて「28万円」を超えた場合、超えた額の1/2が支給停止になっていました。この基準が65歳以上の人と同様に「47万円」に引き上げになりました。

世界の年金ランキングは？

昨年10月にアメリカのコンサルティング会社が世界年金ランキングを発表しました。

日本は調査対象となった43か国中36位、昨年の39か国中32位から少し順位を落としました。

同社は、「日本の順位の低迷は、長寿化のフロントランナーであるがゆえの宿命とはいえ、現役世代が抱えている老後への不安感の度合いを映し出している指標と捉えると違和感はないかもしれません。ただ、漠然と不安を感じるというのは健全な姿ではなく、まずは現状の制度を正しく理解することが重要です。」とコメントしています。

年金シミュレーターを使ってみよう

制度の理解は勿論ですが、まずは自身の加入状況や将来の見込を確認してみましょう。

厚生労働省が4月から試験運用を始めている「公的年金シミュレーター」は誕生月に送られてくる「ねんきん定期便」に記載されている2次元コードを読み込むだけで手軽に試算出来ます（今年4月以降のねんきん定期便が対象です）。

今後の収入の変化、繰上げ・繰下げ受給した場合に受給額がどう変わるかなどがわかりやすくグラフで表示されます。

操作方法については動画の説明もあるので一度ご覧になってはいかがでしょうか？

